

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業内容

事業名	市田柿の皮や熟柿を食材にしたSDGsを取り入れたメニュー・特産品開発事業
事業主体 (連絡先)	高森町商工会 (長野県下伊那郡高森町下市田2971-7)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 エ 商業の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	396,000円 (うち支援金: 297,000円)

高森町商工会内に市田柿の皮や熟柿を食材にしたSDGsを取り入れたメニュー・特産品開発委員会を組織し、市田柿の皮や熟柿を食材にしたSDGsを取り入れたメニュー・特産品の試作品開発に向けたアイデア出しと、試作品作成に向けた検討を4回行ない、この委員会で決定された、試作品開発の方向性を外注業務委託先の食楽BNS(株)に伝え試作品を制作させた。

熟柿については食材として収穫することが困難なためメニュー・特産品の開発は断念したが、柿の皮はパウダー状又はペースト状にする1次加工を行なった上で、柿の皮のパウダーを使った試作品を開発し、自らの事業所でメニューとして試験的に販売を開始した。また、柿の皮のペーストを使って試作品を開発し、自らの事業所でお土産品や業務用のデザートとして4月以後販売する目処がついた。



【メニュー・特産品開発委員会の様子】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①町内の食品メーカーが柿の皮を食材として利用できるようにパウダー状又はペースト状にする1次加工を行ない、業務用として4月からパッケージを開発し本格的な販売を行なう。町内の飲食店は柿の皮のパウダーを使った試作品を開発し、自らの事業所でメニューとして試験的に販売を開始した。また、町内のお土産用菓子メーカーは柿の皮のペーストを使って試作品を開発し、自らの事業所でお土産品や業務用のデザートとして4月以後販売する目処がついた。
- ②本補助事業の成果をSNSで情報発信することにより、全国のSDGsや環境に関心のある方に高森町のファンになっていただき、観光客の誘客やお土産品の販売に効果が期待できる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「市田柿発祥の里」高森町では農・商工・観が一体となって、市田柿を作る過程で廃棄処分される柿の皮を町内の飲食店や食品メーカーがメニューやお土産品として製造し販売するという、全国でも例のないメニュー・特産品開発が1つの町の中で完結するメイドイン高森のストーリーを、SNSで情報発信し続けて、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を見据えて、高森町の魅力を全国に周知する。

【目標・ねらい】

- ①市田柿の皮や熟柿を食材にしたSDGsを取り入れたメニュー・特産品開発委員会での試作品開発の成果に基づく会員事業所での試験的な導入
- ②市田柿の皮や熟柿を食材にしたSDGsを取り入れたメニュー・特産品開発委員会での試作品開発の成果に基づくSNSでの情報発信

※自己評価【B】

【理由】
市田柿の皮や熟柿を食材にしたSDGsを取り入れたメニューや特産品開発に、飲食店や食品メーカーが販売を前提に深く関わってくれて、メニューやお土産品としての販売の目処がたったため。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある